

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-46
研究課題名	震災後のギラン・バレー症候群およびフィッシャー症候群の発生頻度の推移に関する研究
研究期間	西暦 2013 年 5 月（倫理委員会承認後）～ 2014 年 5 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録 ）
上記材料の採取期間	西暦 2003 年 3 月～ 2013 年 3 月
意義、目的	<p>背景：ギラン・バレー症候群およびフィッシャー症候群は免疫介在性の急性末梢神経障害であり、その半数では明らかな先行感染（上気道感染、下痢等）がみられる。震災後、一過性に各種感染症の増加が生じたことがすでに報告されており、これに伴いギラン・バレー症候群およびフィッシャー症候群の発生頻度も増加した可能性がある。これまでには災害と発生頻度について述べられた報告はなく、今後の災害対応において重要な情報を提供する事が可能である。</p> <p>目的：東日本大震災後の仙台におけるギラン・バレー症候群およびフィッシャー症候群の発生頻度とその特徴について、他の年と比較することにより明らかにする。</p>
方法	2005 年以降、東北大学病院神経内科と東北薬科大学病院神経内科にギラン・バレー症候群またはフィッシャー症候群の診断で入院した患者の入院カルテより、年齢・性別・先行感染の有無と種類・髄液所見・ピークまでの期間・Functional state・抗糖脂質抗体・治療の種類に関して情報を収集し統計解析する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学神経内科 022-717-7189 担当 豎山真規